

令和 2 年 度

日本丸メモリアルパーク
指定管理者年間事業報告書

帆船日本丸記念財団・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体

目 次

この目次は右上ページ数字
を参照してください。

1	令和2年度事業概観等	2
2	帆船日本丸事業	3
3	横浜みなと博物館事業	6
4	みなとの賑わい創出事業	9
5	緑地管理・活用及び研修施設事業.....	10
6	集客増に向けた重点取組	12
7	組織運営の質的向上に向けた取組.....	15
8	管理執行体制	17
9	事業一覧表	20
10	指定管理業務の収支状況	28

1 令和2年度事業概観等

(1) 施設概要

- ア 施設名
日本丸メモリアルパーク
- イ 所在地
横浜市西区みなとみらい二丁目1番1号
- ウ 対象施設等
 - (ア) 帆船日本丸
総トン数 2,278t
 - (イ) 横浜みなと博物館
7,155.31 m²
 - (ウ) 研修施設
873 m²
 - (エ) 緑地
38,100 m²
 - (オ) その他
タワー4棟

(2) 施設管理者

- ア 共同事業体
帆船日本丸記念財団・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体
- イ 代表団体
公益財団法人 帆船日本丸記念財団
- ウ 代表者
会長 金近 忠彦
- エ 所在地
横浜市西区みなとみらい二丁目1番1号
- オ 設立
昭和59年10月1日
- カ 指定管理者期間
平成28年4月1日～令和4年3月31日（第3期）

(3) 事業概観

令和2年度は第3期指定管理期間の5か年目の最終年でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年2月末日から始まった休館が、5月末日まで続きました。6月以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組みながら開館をし、利用者に安全かつ安心して利用していただけるよう、職員一丸となって事業に取り組みました。

10月21日には、当財団が、昭和60年の公開以来、総帆展帆や海洋教室などの事業を行ってきたことにより、市民と共に育む海事思想の普及に貢献したことから、第13回海洋立国推進功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。



第13回海洋立国推進功労者内閣総理大臣表彰状

1月からは、2度目の緊急事態宣言が発出され、3月まで延長されたことにより、今年度の事業は、計画どおりの執行とはなりませんでした。

このような状況の中、対前年度比では、主要数値実績は大きく減少しました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を考慮し、横浜市と2年度主要目標数値を見直した結果、全ての項目で目標を達成することができました。

2年度目標項目	実績 (昨年度実績)	対前年度比	目標
帆船日本丸及び横浜みなと博物館の有料入場者数	25,079人 (74,279人)	66.2%減	19,000人
日本丸メモリアルパーク利用者数	428,341人 (1,387,576人)	69.1%減	260,000人
小・中・高等学校の来校数	130校 (546校)	76.2%減	34校
お客様満足度	99.7% (98.2%)	1.5ポイント増	97%以上
効率的な財政運営・人材育成及び風通しの良い職場作り	推進	—	推進

参考 指定管理者応募時事業計画書から

指定管理期間の目標（令和2年度）	
帆船日本丸及び横浜みなと博物館の有料入場者数	8万7千人
日本丸メモリアルパーク利用者数	150万人
小・中・高等学校の来校数	650校
お客様満足度	97%以上
指定管理料の削減	税抜き5%削減

2 帆船日本丸事業

帆船日本丸は船齢91歳となりました。国指定重要文化財として、今後末永く保存するため、職員による船体の整備、美観保持作業及び帆走艀装の整備を

日々継続しました。

公開事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、帆船日本丸を活用した参加・体験型事業の中止や、内容の変更を行いました。また、ガイドボランティアによる船内案内はすべて中止としました。

しかしながら、Webを活用した企画等の際に、職員から直接帆船の魅力を市民の皆様に伝えることにより、帆船日本丸の事業活動をより理解していただけるよう努めました。加えて、昨年が続いて、各種講座等の開催や、船内展示の定期的な内容更新を行い、リピーターの確保に努めました。

(1) 保存事業

国指定重要文化財帆船日本丸の美しい姿を末永く保存するため、次の整備を実施しました。

ア 日常保守点検

- (ア) 乗船者見学通路・公開区域の安全点検、整備、美観保持
- (イ) 船体鋼材の発錆部整備及び船内真鍮磨き
- (ウ) マスト、ヤードその他帆走艀装の点検・整備
- (エ) 船体木部の点検・整備

イ 災害防止

- (ア) 乗船者及び甲板整備協力者の安全確保
- (イ) 船内防災センターにおける火災及び浸水並びに不法侵入者等に備えた24時間体制の集中監視実施

ウ 年次船体整備点検・整備

中間検査受検工事等

エ 全マスト及びヤード塗装

オ フォア及びメインマスト ローアゲルンヤード (Lower Top-gallant Yards) 更新工事

カ 船内誘導灯の交換 (新規格LED化)

(2) 公開事業

帆船日本丸船内を年間229日公開し、展帆ボランティアの協力による総帆展帆は、実施できませんでした。職員により、一部の帆を張る部分展帆を3回行いました。また、満船飾を14回行い、普段は見ることのできない帆船日本丸の美しい姿をご覧いただきました。

6月2日から開館し、展示室の船内展示を「船内で作られる小物たち」に替え、手作りの防舷材や作業道具などを公開しました。

夏休み期間中の8月2日には、子ども向けに「船の講座 船はどうして進むのだろうか？」を、8月4、7日には自由研究の一助として「ロープ作成体験」を開催しました。また、11月3日には、前年度に引き続き大人向けに、

船長による「トールシップの帆走艤装②」講座を開催しました。

12月中旬から1月初旬までの間、帆船日本丸左舷1号ドック内において、昭和27年（1952年）から68年間取り付けられていたフォア・ロアーゲルンヤード（Lower Top-gallant yard）を展示・公開しました。さらに3月に更新した、旧ロアーゲルンヤードのヤードアーム（ヤード端約2m、ひのき材）を帆船日本丸船内第2甲板に展示・公開しました。

これらの活動を通して、市民の皆様には帆船日本丸から得られる知識や経験を共有していただき、帆船日本丸の100年保存に対する理解を得られるように努めました。



部分展帆と満船飾



「船内で作られる小物たち」



ロアーゲルンヤードのヤードアーム



子ども向け「船の講座」

(3) 青少年錬成事業

帆船日本丸における錬成事業（海洋教室等）は、訓練施設において様々な体験型訓練と団体生活を行うことにより、時間厳守、公德心、体力・精神力の向上、注意力、友愛、協調性、責任感及び積極性を習得してもらうとともに、海・船・港に関する理解と知識の増進を図ることを目的としています。

今年度は19回（19日）の海洋教室を実施し、海事思想の普及を図りました。実施に当たっては、実施団体と事前に訓練プログラムを調整し、可能な限り参加者の希望に沿ったプログラムを実施できるよう努めました。



手旗信号



バウスプリット渡り



甲板磨き

3 横浜みなと博物館事業

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、博物館ボランティアによる展示案内、教育活動のプログラムはすべて中止としました。工作教室などの教育普及事業もほとんどを中止しました。一方で、Webを利用した工作教室コンテンツの発信など、コロナ禍での新しい博物館活動を模索しました。

平成29年度にオープンした柳原良平作品の日本で唯一の常設展示施設である、柳原良平アートミュージアムでは、年3回の特集展示「横浜港今昔」（オープン2周年記念）、「星空の航海」及び「帆船日本丸」の会期を変更し、開催しました。

特別展示事業では、再開館記念展示「なるほど！ミナト横浜展」、「横浜みなとキッズクラブ一年間の活動記録展」、「海事産業応援フォトコン作品展」及び海洋立国推進功労者内閣総理大臣表彰受賞・帆船日本丸進水91周年記念企画展「日本の練習船～海の上の学校」を開催し、多彩な特別展示事業を実施しました。また、展示への理解をより深めていただくため、関連事業としてWEBでの展示品リスト、関連図書リストの公開やワークショップを実施しました。

11月には、1989（平成元）年の横浜マリタイムミュージアムオープンからの入館者数が400万人を達成し、セレモニーを開催するとともに、11月23日には帆船日本丸にて記念の部分展帆を実施しました。

博物館ボランティアは年間を通して活動中止としましたが、1～2か月に1回の頻度で博物館の活動や取り組みを文書でお知らせし、継続した博物館への協力を依頼しました。



なるほど！ミナト横浜展 展示風景



海事産業応援フォトコン作品展
展示風景



企画展「日本の練習船～海の上の
学校」展示風景



横浜みなと博物館入館400万人達成

(1) 常設展示事業

展示案内ボランティアによる展示案内及び説明は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。学芸員が常設展示を深く掘り下げて分かりやすく解説する「学芸員のワンポイント展示解説」は、8月から再開し、12月まで実施し、引き続き常設展示の魅力を伝え、リピーターの確保に努めました。

ライブラリーは、近隣図書館等の対策などを参考に、6月30日から公開を再開しました。

展示品のメンテナンスは、日常の職員・スタッフによる点検・保守や不具合の修理、定期保守点検を行い、良好な状態で見学できるよう努めました。あわせて、展示室各所に消毒用アルコールを設置するとともに、ハンズオンの展示や、押しボタン式の展示には、触らないでも見学ができるよう、代替としてパネルやセンサーを設置しました。また、スタッフによる消毒作業の強化など新型コロナウイルス感染症拡大の防止に努めました。

(2) 特別展示事業

6月2日から、横浜港の近代化の歩みを伝える歴史遺産を当館所蔵資料の写真パネルで紹介する、「なるほど！ミナト横浜展」と、前年度の横浜みなとキッズクラブの子どもたちの活動の成果を発表する「横浜みなとキッズクラブ一年間の活動記録展」を開催しました。続く7月からは、エッセンシャル・ワーカーである海事産業に取り組む人々を応援するため、日本海事新聞社が募集した「海事産業応援フォトコンテスト」の作品展を開催しました。同展は各区に協力いただき、戸塚区区民広間、瀬谷区民ホールを巡回し、多くの市民にコロナ禍での海事産業の大切さを伝えました。

冬には、進水91周年を迎えた帆船日本丸の航跡を紹介した展示「91th進水記念日 日本丸写真展」、海運業・水産業を担う人材育成の場として大きな期待が寄せられている、練習船・実習船の役割について紹介する企画展「日本の練習船～海の上の学校」を開催しました。関連行事では、ワークショップ「実習生も使った、船の道具を持ってみよう」を実施しました。



91th進水記念日 日本丸写真展



ワークショップ 実習生も使った
船の道具を持ってみよう

柳原良平アートミュージアムでは年3回、特集展示を開催しましたが、会期や内容を変更しての実施となりました。みなとみらい線日本大通り駅コン

コースの陶板レリーフ「横浜港今昔」の原画を中心に、柳原良平が描いた横浜港の作品を展示した「横浜港今昔」をオープン2周年記念として実施しました。

同展の開催に合わせ、企業と連携し、みなとみらい線で柳原良平オリジナルデザインの日乗車券を発行しました。9月には、幼少のころから好きだった星座に関する作品を展示した「星空の航海」を開催しました。同展の開催に合わせ、企業との連携で、展示作品のTシャツ、バック等の販売を行いました。12月には、日本丸進水91周年に合わせ、横浜誘致に尽力した柳原良平の帆船日本丸の作品を展示した「帆船日本丸」を開催しました。



柳原良平アートミュージアム特集展示
「星空の航海」展示風景

展 覧 会 名	会 期
再開館記念展示 なるほど！ミナト横浜展	6月2日～8月30日
横浜みなとキッズクラブ一年の活動記録展	6月2日～7月5日
海事産業応援フォトコン作品展	7月18日～8月30日
同巡回展（戸塚区区民広間）	9月25日～10月2日
同巡回展（瀬谷区民ホール）	10月27日～10月30日
91 th 進水記念日 日本丸写真展	1月4日～2月28日
海洋立国推進功労者内閣総理大臣表彰受賞記念・帆船日本丸進水91周年記念企画展 日本の練習船～海の上の学校	2月27日～5月9日
柳原良平アートミュージアム特集展示名	会 期
オープン2周年記念 横浜港今昔	6月2日～9月27日
星空の航海	9月29日～12月20日
海洋立国推進功労者内閣総理大臣表彰受賞記念・帆船日本丸進水91周年記念 帆船日本丸	12月22日～5月9日 ※会期延長

(3) 教育普及事業

毎年実施していた小・中学生及び大人を対象とした船の工作教室や海図教室など各種教育普及活動は、ほぼすべての事業を中止しました。入館者向けに毎週土曜日はキッズのためのクイズラリー（8月より再開）、2月の日曜日には大人のためのクイズラリーを実施し、来館された方に楽しい時間を過ごしていただけるよう努めました。



また、ステイホーム中の子供たちに船に親んでもらうために、Webサイトで工作教室のコンテンツを発信する「おうちで船の工作にチャレンジ！」を夏休みに新たに実施しました。

Webサイト「おうちで船の工作にチャレンジ！」

(4) その他

さまざまな災害から所蔵品を守るため、収蔵庫や書庫の整理作業を実施するとともに、これまで以上に災害に対応できる収蔵環境に向けた取組を進めます。

4 みなとの賑わい創出事業

(1) 水辺の事業

都心のインナーハーバーに立地する好条件を生かした、水辺に親しむ体験型事業を実施し、みなとの賑わい創出に貢献しました。

日本丸メモリアルパークの内水域及び汽船道側水域を中心に、NPO法人横浜シーフレンズと連携し、感染症対策を徹底したうえで、シーカヤック教室を開催しました（計20回開催、延べ115人参加）。

横浜市カヌー協会・NPO法人横浜カヌー倶楽部と連携した、大人から子供まで広い世代で参加できるカヌーポロ教室を行いました（計8回開催、延べ68人参加）。

また、両教室は、4月～6月及び1月～2月については、中止しました。



シーカヤック教室



カヌーポロ教室

(2) パーク利用事業（イベント）

市民交流やコンサートをはじめとする音楽イベントなどを定期的に行いました。秋にはFMヨコハマが「沖縄チャンプルーカーニバル」、冬にはホンダモーターサイクルジャパンがマスコミ向けの「Honda PCX 報道試乗会」を行いました。

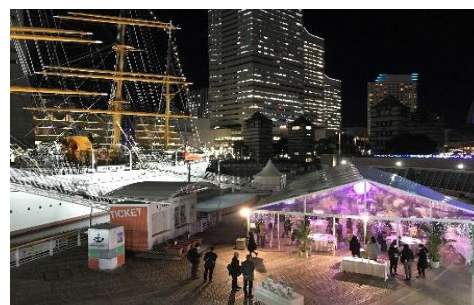


FMヨコハマ「沖縄チャンプルーカーニバル」

(試乗はパーク外)

横浜市の「横浜文化プログラム 2020」音楽&ダンスステージ プリキュアステージを開催し、ファミリー層に喜ばれました。

また、「ICCA Asia Pacific Chapter Summit2020」のレセプション会場として夜間のアリーナ活用を行いました。



ICCA Asia Pacific Chapter Summit2020

(3) ミュージアム・ショップ事業



帆船日本丸、横浜みなと博物館、柳原良平アートミュージアム及び横浜にちなむ商品を取り揃え、来場者の思い出となる商品を販売するとともに、売上向上等を検討する職員プロジェクトチームによるショップ検討委員会により、

お客様が商品を買いたい雰囲気の良い売場レイアウトへ変更しました。

(4) レストラン・カフェ事業

施設開館日に飲食サービスを提供するため、横浜みなと博物館内にレストラン・カフェを業務委託により運営しました。また、みなとみらい21地区の魅力づくりの一役を担うため、夜間の営業や季節に応じたアリーナでのビヤガーデンの営業も展開しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、8月末をもって撤退しました。

5 緑地管理・活用及び研修施設事業

(1) 緑地の維持管理・活用

ア 安全管理

強風で樹木の枝折れや、落下による人身災害・設備災害を防止するため、高木の枝は高所作業車を使用して剪定しました。

みなとみらい大通り歩道に張出した枝が通行人に接触する恐れがある個所は、グリーンボランティアにより剪定しました。

また、大きく育ったクスノキの根が、周囲の床を持ち上げ、段差がつかず転倒災害の原因となる個所においては、ボランティア活動によって段差を補修



高木の枝下ろし

しました。



歩道上の枝払い



床段差の解消

イ 環境管理

来場者に快適に見学していただくため、年間を通じてパーク内に水耕プランター60個を配置し、季節に応じた草花の植替えを年4回行いました。また、昨年に引き続き、さくら通り歩道に横浜市が設置した企業協賛花壇（みなとみらい21「まちかど花壇」）の維持管理を受け持ち、職員による手入れとともにボランティア活動により地域環境の美化改善に貢献しました。



みなとみらい21まちかど花壇
(さくら通り)

ウ 撮影

緑地や帆船日本丸をはじめとした日本丸メモリアルパーク内の魅力的な空間やさまざまな施設や設備を利用し、テレビドラマ・映画・CM・雑誌などの撮影で合計99件の御利用をいただきました。



昼間 テレビドラマ撮影



夜間 テレビドラマ撮影

(2) 研修施設（訓練センター）の管理運営

本施設は駅からのアクセスも良く、利用者から好評を得ています。
2月からは、従来のF a x 又はメールによる予約方法からW e b による

受付に順次変更し、利用者へのサービス向上及び事務処理の効率化に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、アルコール消毒等の備品に加え、第3会議室と小会議室にサーキュレーターを配備するとともに、会議室毎に1日当たり1団体の貸出とし、利用者が安心して使用できる環境を整えました。



新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取った会議室

6 集客増に向けた重点取組

主な取組は、次のとおりです。

(1) 魅力づくり・集客アップ会議の活用によるプロモーション施策の実施

6月の魅力づくり集客アップ会議で、コロナ禍での未曾有の売上減少を想定し、環境激変に対応した効率的かつ、お客様有用性を追求したプロモーションの実施に努めました。

ア 紙媒体をほぼ全廃し、Web及びSNSを活用したプロモーションへの転換を図りました。

イ 共同事業体である株式会社JTBコミュニケーションデザイン（以下「JCD」という。）と協働し、新たに10月～1月中旬までデジタルを活用した集客施策を実施しました。Google及びFacebookならびにInstagramへの当施設コンテンツの広告掲載をし、表示回数で15,769,260回・クリック数で31,093件、当財団HPへのアクセス件数6,281件・獲得率（アクセス数÷クリック数）20.20%をマークすることができました。併せて今後のプロモーション戦略の参考にすることができました。

ウ 入館者アンケートは中止しました。



JCD協働デジタル広告

(2) 学校団体利用を主とした教育旅行マーケット及びマーケットごとの取組

マーケット全体の動きが極めて鈍化し、需要が大きく落ち込む中、営業（特に団体誘致のための渉外活動）も大きく制限を受け影響が出ました。

また売上減少に伴い、支出抑制のためDM、有料情報発信ツールでのプロモーションをほとんど中止しましたが、内容を見直し、プロモーション施策の継続実施及び新たなプロモーション施策に取り組みました。

ア 教育旅行マーケット

来校数130校（対前年 23.8%・△416校）と激減しました。教育旅行との接点を切らさないため、公益財団法人日本修学旅行協会発行の「月刊教育旅行」へ新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の対応を記載した教育旅行団体受入の広告出稿を実施しました。

イ 企業・団体等法人マーケット

一般団体件数13件（前年比5.4%・△228団体）と大きく影響を受けました。団体誘致のための営業・渉外活動も、コロナ禍により各企業等の企業活動の大幅な鈍化・中止、テレワークの導入等により、行動制限を受けた中で次年度実施に向け、各法人との接点の継続保持に努めました。

(ア) 旅行会社

(株) JTBの団体向け企画商品「JTBならではの」へ「学び」のプランとして参画し、同社取扱団体の誘致に努めましたが、同プランでの受入なしという結果になりました。しかしながら、同社法人営業部門への周知を継続的に図れたと考えます。

また、11月～12月には、観光需要喚起策 Find Your YOKOHAMA キャンペーン（公益財団法人横浜観光コンベンションビューロー主管）実施に伴い、取扱旅行会社（ポケットカルチャー社）の企画の4プランに参画しました。このような募集形態は初めてでしたが、催行率46.9%・集客率93.5%と高い数値をマークし、短期間でしたが集客258人・売上額182千円の結果となりました。

(イ) その他企業・団体等

a 海洋都市横浜うみ協議会

今年度のうみ博は「海洋都市横浜バーチャルうみ博2020」として、8月1日～9月30日までWebでのバーチャル開催となり、【「Webで学ぼう」帆船日本丸】クイズをWeb展開し、「学び」の広報の一つとなりました。

b カルチャー系企業

当施設を講座開催場所としてカルチャー講座開設に向け、(株)朝日カルチャーセンターへ営業しました。今年度、実施実現できませんでしたが、次年度以降実施に向け取組を継続します。

c 近隣諸施設等

特集展示「横浜港今昔」開催に伴い、横浜高速鉄道(株)とタイアップし、今般初めて同社の1日乗車券に柳原良平デザインを模し、記念乗車券として発売、割引入館特典を付与し、入館促進を図りました。

割引適用期間（7月～12月）の有料入館者



みなとみらい線 1日乗車券

数は、112人（対前年108.7%）となりました。

ウ 個人マーケット

(ア) オンライン販売（E-ticket）チャンネルへの新規取組

6月からアソビュー社、10月から楽天、Pass Me（JTB）の計3社の取扱いを開始しました。3社合計で793枚、313千円を販売することができ（有料入館者シェア3.9%）、チケットレス及びキャッシュレスの新たな取組となりました。



Webチケットのバナー

(イ) リアル販売チャンネルへの取組

近隣ホテルと連携した宿泊者向け割引入館特典の販売をホテル側からの要請もあり、中止しました。また、9月にオープンしたザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜と宿泊者向けプログラムの共同開発や緑地を利用したプロモーション等を検討して来ました。次年度には具体的に実施する方向で取組を継続します。

エ インバウンド（訪日外国人客）集客増に向けた取組

外国人入館者数は、498人（対前年9.0%・△5,007人）と激減し、同マーケットへのプロモーションを全て中止しました。

このような状況下、令和元年より製作してきた外国人向け多言語化QRコード（施設案内3点セット）を完成しました。

また、次年度以降に向け、クルーズ船客に対して、当施設をコンテンツとした観光拠点（ゲートウェイ）としての回遊性促進のためのプログラム開発を横浜市港湾局及び関係旅行会社と検討を開始し、実施に向けた取組を次年度継続します。

(3) 広報・宣伝への取組

総帆展帆の中止等により掲載コンテンツが減少し、掲載出稿数は、239件（対前年68.9%・△108件）と大幅に減少しました。上期（4～9月）に大きく影響を受け、対前年△128件でしたが、下期は新聞等メディア及び対象を絞った情報誌に記事や広告を掲載した結果、前年+20件超えになりました。

ア 学校修学旅行誘致用「月刊教育旅行」に、コロナ禍での当施設の受入を含めた広告掲載を実施しました。

イ 地域誌・リーフレット（横浜来街観光客向け）

「MM線マップ」、「ヨコハマサイクリングマップ」、「タウンニュース」、「横浜STORY」及び「Mirea」等に掲載しました。

ウ ぐるっとパス2020（東京の美術館・博物館入館券ー東京・神奈川・千葉・埼玉各都県内99施設をまとめた冊子）への参画を継続し、広告の掲出、パスの販売及び利用受入をしました。

しかし、販売冊数11冊（対前年 13.3%・△72冊）、利用枚数 1,182 枚（対前年 34.9%・△2,206 枚）と販売及び入館者数とも激減しました。

エ 4月にオープンしたユニクロ横浜ベイサイド店とタイアップし、9月に柳原良平デザインをプリントしたユニクロ商品（Tシャツ、トートバック、パーカー）を同店で販売をし、グラニフ社（Tシャツ）に続きアパレル企業とのタイアップ広報宣伝を実施しました。

オ 特集展示「横浜港今昔」開催に伴い、横浜高速鉄道（株）とタイアッププロモーションとして、みなとみらい線全駅へのポスター掲出及びみなとみらい線横浜駅へのポスター連貼りを初めて実施しました。



ユニクロトートバック

(4) 入館料金の柔軟な対応

単館券入館者数は、10,218 人（対前年 31.5%・△22,177 人）、小中高校生土曜特別料金入館者数は、566 人（対前年 29.8%・△1,334 人）と激減しました。

ファミリー及び若年層等入館形態による新たな料金設定については、コロナ禍もあり取組めず、次年度継続検討事項となりました。

(5) Webサイトの活用

紙媒体に代わる情報発信ツールとして、迅速性、お客様の有益性及び有用性を追求し、マーケット変化及びお客様ニーズに対応すべく重要課題として取組みました。E-ticket 販売開始に伴い、各社Webへリンクさせ、販売チャネルとしての活用に初めて取組みました。

また、SNSではInstagramの公式アカウントを開設し、情報発信ツールとして有効活用するとともに発信を加速しました。

7 組織運営の質的向上に向けた取組

(1) 風通しの良い職場作り

職員一人ひとりが、必要な情報を共有できるよう、毎朝の朝礼で連絡事項の伝達、報告等を行いました。毎週木曜日には管理職業務調整会議を実施し、懸案や課題の解決を図るとともに、職員ミーティングを定例開催しました。

また、新たに安全衛生委員会を立上げ、職場での職員の労働安全の課題解決に取り組みました。

その他委託業務を受託し、スタッフを常駐させている警備、設備、清掃事業者と毎月1回安全衛生協議会を開催し、コミュニケーションを深め、施設の安全な維持・管理を図りました。

(2) 各種研修会の実施・参加

集合した研修を開催することが困難な状況の中、コンプライアンス等を目的とした研修会等を実施（延べ57人参加）するとともに、横浜市や他団体が主催する研修会等に参加しました。（延べ32人参加）

また、従来なら実施しているボランティア向けの研修会については、中止としました。

(3) 防災訓練の実施



備蓄物資

10月21日（水）の秋の訓練（31人参加）は、当施設が帰宅困難者一時滞在施設に指定されていることから、開設や運営について備えるための訓練を実施しました。また、2月10日（水）開催のみなとみらい21地区内の合同防災訓練では、帰宅困難者受入訓練に参加しました。

なお、1月26日（火）の文化財防火デーに因んだ防災訓練は、中止としました。

(4) アンケート調査（モニタリング）の実施

アンケート実施日及び回答数

令和2年11月18日（水）～21日（土） 回答数 300件

調査結果の主な内容は次のとおりとなりました。

ア 来場回数

2回以上来場したリピーターは、帆船日本丸が10.9ポイント、横浜みなと博物館が2.9ポイント、日本丸メモリアルパークが8.7ポイント、それぞれ昨年と比べ減少しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあると思いますが、引き続き、新規顧客の誘致策の強化と合わせて、帆船日本丸と横浜みなと博物館の更なる活用等を活かした魅力づくりに取組、来場者数向上に努めます。

イ 来館者の期待（複数回答全431件 カッコ内は前年度数値）

「日本丸への興味」、次いで「横浜みなと博物館への興味」、「船・港への関心」、「柳原良平アートミュージアムへの興味」、「その他」となっています。「その他」では、学校行事が15人と昨年度よりも増加しています。

柳原良平アートミュージアムへの興味が62人14.4%（58人14.3%）で昨年度とほぼ同様でした。引き続き、特集展示をはじめ、常設展示にもさらに工夫を凝らすとともに、柳原良平アートミュージアムの活用を強化

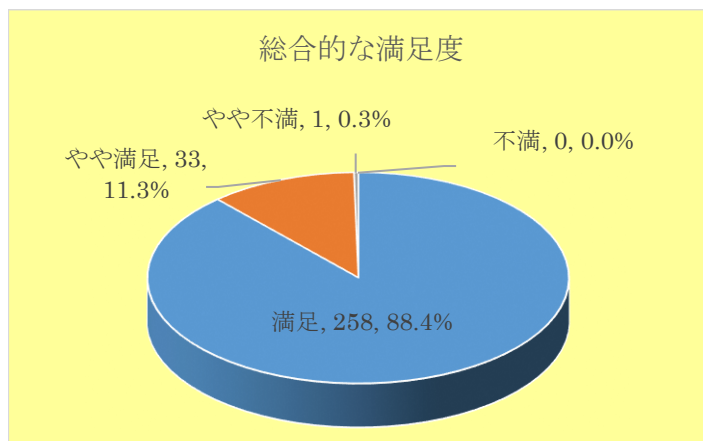
していきます。

ウ 総合満足度（286 人回答 カッコ内は前年度数値）

満足・やや満足の合計が 291 人 99.7%（283 人 98.9%）の評価をいただきました。

なお、不満 0 人 0%（0 人 0%）、やや不満は 1 人 0.3%（3 人 1.0%）で、「毎年購入していたカレンダーが残念ながら買えなかったこと」の御意見をいただきました。

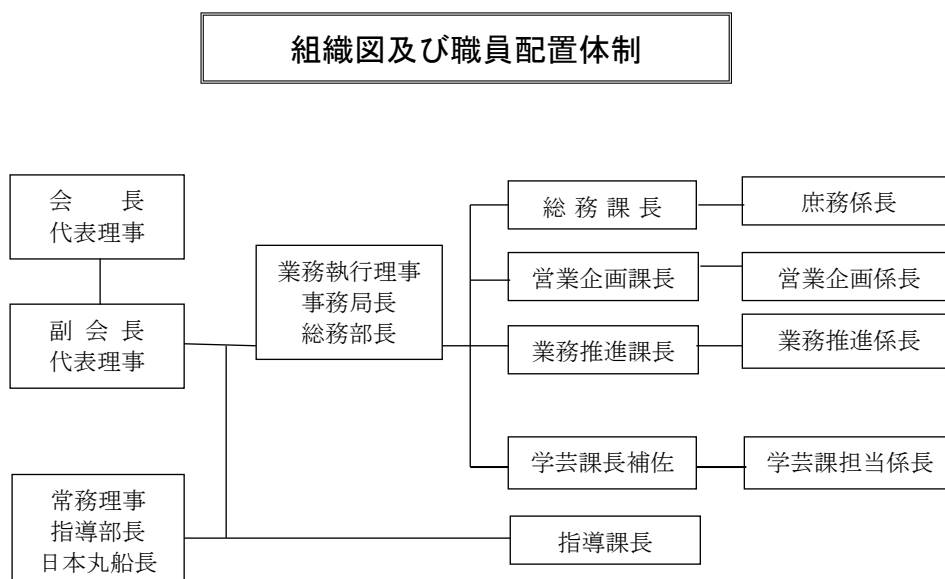
引き続き目的・目標意識を持って、維持・向上を目指して努めていきます。



8 管理執行体制

(1) 職員配置体制表

指定管理者の業務となる「日本丸メモリアルパーク施設」（以下「施設」という。）の管理運営については、次の職員配置体制で業務を執行しました。



業務内容	所 管		分担業務	所属員	備 考
総務管理業務	総務課	庶務係	庶務、経理、人事・労務、契約、給与、理事会等、市調整、売店	3名	アルバイト5名 売店運営等
横浜みなと博物館 管理運営業務	学芸課	学芸係	常設展示事業、特別展示事業、教育普及事業、調査・研究・収集・保存・出版活動事業、ライブラリー（資料閲覧室）事業	3名	アルバイト6名 ライブラリー、 操船シミュレーター運営等
営業業務	営業 企画課	営業 企画係	広報宣伝集客誘致の企画実施、月次集客会議、入場料徴収、学校(市外)・旅行者営業、地域連携・イベント等	2名	アルバイト1名 旅行者営業・ 学校営業、市場 調査、イベント 企画、広報等
施設管理業務	業務 推進課	業務 推進係	学校関係(市内)・Webによる誘客、情報システム維持管理、緑地、施設維持管理、業務委託、訓練センター運営	6名	アルバイト15名 受付、券売所 シーカヤック教室 業務、訓練セン ター貸出管理業 務全般
帆船日本丸 管理運営業務	指導課		保存事業、公開事業、青少年錬成事業、教育普及事業	10名	
計				24名	

(2) 責任体制

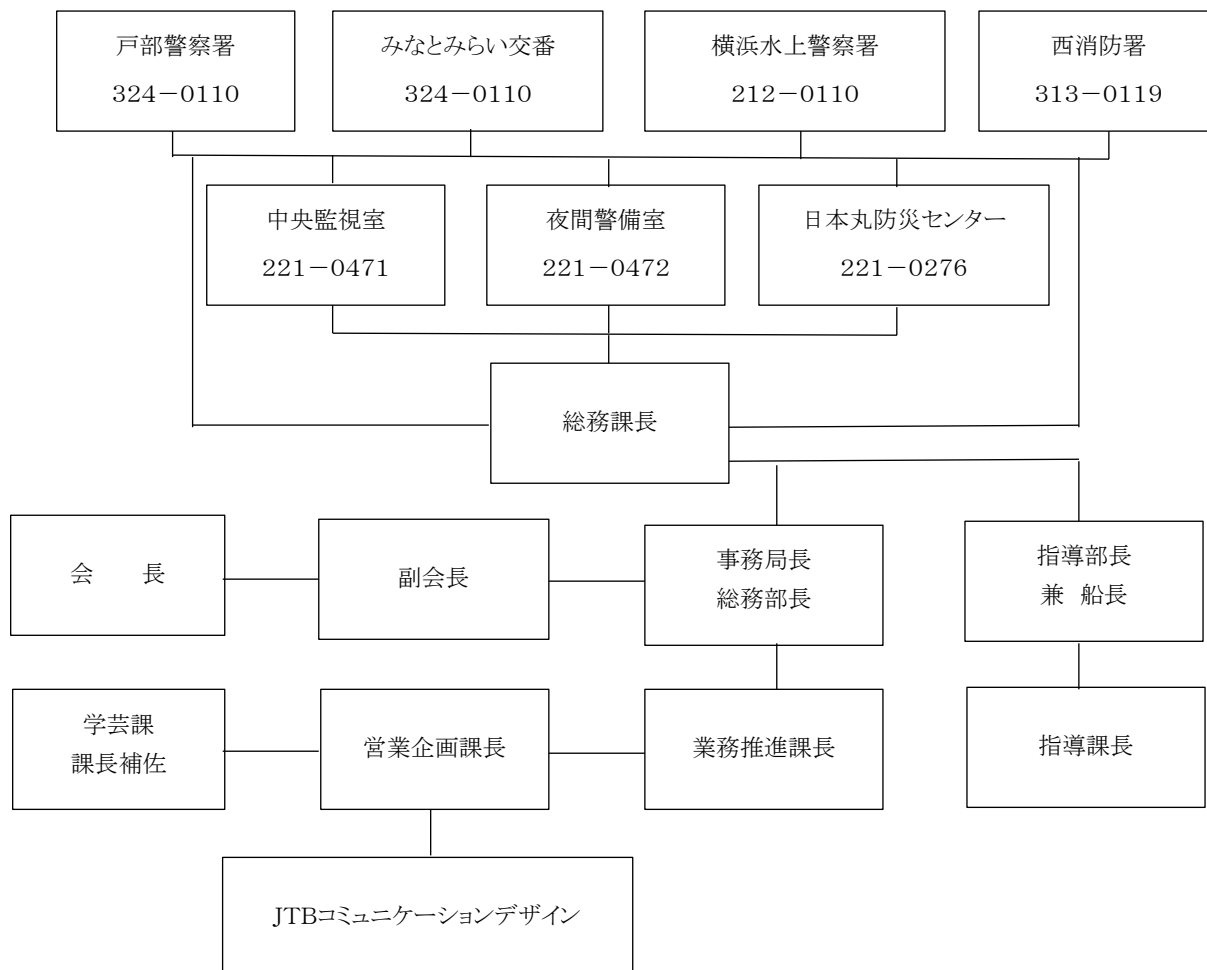
次の責任体制で効率的な業務執行を図りました。

課 名	業務責任者	指定管理業務
総 務 課	総務課長	庶務、経理（契約入札含む）、人事、給与、売店等運営、
学 芸 課	学芸課長	横浜みなと博物館事業、常設展示事業、教育普及事業、調査・研究・収集・出版活動事業、ライブラリー事業
営業企画課	営業企画課長	広報宣伝集客誘致の企画実施、月次集客会議、入場料徴収、学校(市外)・旅行者営業、地域連携・イベント等
業務推進課	業務推進課長	学校関係(市内)・Webによる誘客、情報システム維持管理、緑地、施設維持管理、業務委託、訓練センター運営等

指 導 課	指導課長	帆船日本丸事業保存事業、公開事業、青少年錬成事業、教育普及事業
-------	------	---------------------------------

(3) 緊急連絡体制

緊急時に備え次の連絡体制を設置しました。



9 事業一覧表

* 令和2年10月21日 第13回海洋立国推進功労者表彰総理大臣表彰を受賞しました。

【帆船日本丸事業】	
帆船日本丸公開 4月～1月、3月	船内を年間 229 日一般公開、公開日は次の日を除く毎日 ・月曜日（祝日にあたる時は公開、翌日が休館日） ・年末年始（12月29日から1月3日） ・船体整備（1月28日から2月28日）
総帆展帆	実施せず（部分展帆3回実施）
親子展帆	実施せず
満船飾（14回） 国民の祝日等に実施	4月29日（昭和の日）、5月3日（憲法記念日）、5月5日（こどもの日）、6月2日（開港記念日）、7月23日（海の日）、7月24日（スポーツの日）、8月10日（山の日）、9月21日（敬老の日）、9月23日（秋分の日）、11月3日（文化の日）、11月23日（勤労感謝の日）、1月11日（成人の日）、1月27日（進水記念日）、3月20日（春分の日） ※5月4日（みどりの日）は雨天のため実施せず 2月23日（天皇誕生日）は船体整備期間のため船飾を実施
海洋教室	半日・1日コース合計19回 参加者 567 人 半日コース：8月4日2人、8月7日1人、8月15日18人、11月19日95人（2回実施）、11月26日58人（2回実施）、3月6日17人 1日コース：6月8日27人、6月9日27人、8月8日4人、9月28日35人、9月29日36人、10月6日45人、10月14日45人、10月15日44人、11月5日29人、11月6日30人、11月13日54人
教育普及事業	実施回数2回、参加者16人 『船はどうして進むのだろうか?』 5月6日 7人 船長講座『トールシップの帆走艀装②』 11月3日 9人
総帆展帆協力者登録数	2,311人 総帆展帆協力者として登録されている市民ボランティア
日本丸船内ガイド登録数	44人 日本丸船内のガイドとして登録されている市民ボランティア
甲板清掃ボランティア等	85日の作業日に延べ 196 人のボランティアが真ちゅう磨きなどの整備作業を実施


【横浜みなと博物館事業】	
常設展示事業 4月～3月	年間 228 日一般公開、公開日は次の日を除く毎日 月曜日(祝日にあたる時は公開、翌日が休館日) 年末・年始(12月28日から1月3日まで) 害虫・殺カビ燻蒸期間(1月28日～2月2日)
展示案内 4月～3月	展示案内ボランティア(登録ボランティア36人)による常設展示の説明は、中止
柳原良平アートミュージアム事業	1 オープン2周年記念特集展示「横浜港今昔」 会期: 6月2日(火)～9月27日(日) 5,700人 2 特集展示「星空の航海」 会期: 9月29日(火)～12月20日(日) 10,977人 3 特集展示「帆船日本丸」 会期: 12月22日(火)～5月9日(日) 5,587人(3月末まで)
特別展示事業	1 再開館記念展示 なるほど! ミナト横浜展 会期: 6月2日(火)～8月30日(土) 5,700人 2 横浜みなとキッズクラブ一年間の活動記録展 ※博物館1階ロビーで開催 会期: 6月2日(火)～7月5日(日) 6,287人 3 海事産業応援フォトコン作品展 ※博物館1階ロビーで開催 会期: 7月18日(土)～8月30日(土) 10,461人 巡回展: 9月25日(金)～10月2日(金) 戸塚区民広間 10月27日(火)～10月30日(金) 瀬谷区民ホール 特別協力: 日本海事新聞社、協力: 横浜デジタルアーツ専門学校 4 「91 st 進水記念日 日本丸写真展」※博物館1階ロビーで開催 会期: 1月4日(月)～2月28日(日) 7,062人 5 海洋立国推進功労者内閣総理大臣表彰受賞記念・帆船日本丸進水91周年記念企画展「日本の練習船～海の上の学校」 会期: 2月27日(土)～5月9日(日) 1,432人(3月末まで) 関連事業: 企画展ワークショップ「実習生も使った、船の道具を持ってみよう」 3月27日(土)、28日(日)、(講師: 帆船日本丸記念財団指導部) 17人 ※ 企画展記念講演会「日本の船員教育」 3月20日(土・祝) は中止 ※ 企画展「海の工事現場 はたらく船と水中ロボット」 会期: 9月19日(土)～11月15日(日) 関連事業: 海の工事現場クイズラリー 9月22日(火・祝)、10月11日(日)、 10月25日(日)、11月8日(日) 海の工事現場見学会 10月予定 海の技術研究開発センター見学会 10月予定 以上の企画展及び関連事業は、全て中止

<p>教育普及事業</p>	<p>教育普及ボランティアの協力を得ながら次の事業を実施（登録人数22人）</p> <p>※ ボランティアの活動は中止</p> <ol style="list-style-type: none">1 横浜みなとキッズクラブ 横浜みなと博物館や日本丸、内水域、横浜港をフィールドにした体験型活動を同じメンバーで1年を通して行い、身近なところから海と船と港、くらしと環境などに親しみと関心を深める小学生（高学年）向け事業2 なるほど！ミナト散歩－開港の道コース－ 5月9日（土）3 モーターで動く船工作教室 8月1日（土）、2日（日）4 船と港の夏休み自由研究 8月8日（土）～10日（月・祝）5 親子の海図教室 8月16日（日）6 大人の海図教室 11月1日（日）7 キッズのためのクイズラリー（小・中学生向け／年間） 高校生以下共通券100円の土曜日の小・中学生向け事業 展示をよく見て答えるクイズラリーを実施33回 394人8 楽しい船の折り紙教室（こども向け）9 2021 開運七福神スタンプラリー 1月4日（月）～11日（月）10 学芸員のワンポイント展示解説 学芸員が常設展示を掘り下げて解説3回 24人11 サンデーペーパークラフト教室（ファミリー向け）12 大人のためのクイズラリー（大人向け）2回 51人13 ホリデーペーパークラフト教室（ファミリー向け）14 ホリデー船の折り紙教室（ファミリー向け）15 春休み親子の楽しい船の見学会 3月下旬 <p>※ 1～6、8、9、11、13～15の事業は、中止</p> <p>※ 10の事業は、4月19日（土）、6月14日（土）、2月6日（土）は中止</p>
---------------	--

<p>調査・研究・収集・出版 活動事業</p>	<p>1 資料調査・研究等事業 横浜港を中心とした資料の調査、研究、収集、整理、保存を行い、その成果を公開及び展示・教育活動に反映。また、資料整理のデータベース化を推進 寄贈 2,183 点、購入 10 点、採集 1,014 点 資料修復 1 点 帆船日本丸ヤード取り付け作業、横浜港周辺施設の変遷などの撮影 72 回</p> <p>2 出版活動 企画展「日本の練習船～海の上の学校」展示資料データ等を WEB サイトに掲載</p> <p>3 資料貸出・レファレンス 資料の貸出・閲覧、写真撮影のほか、レファレンスサービスを実施 資料（画像）貸出：（一財）清水港湾博物館、横浜シティガイド協会、株松竹映像センターなど 28 件 67 点 資料特別利用：フェルケール博物館など 2 件 41 点 資料貸出：フェルケール博物館の 1 件、56 点の資料を貸出</p>
<p>ライブラリー事業</p>	<p>横浜港や船、海に関する図書・逐次刊行物等を収集・整理・公開し、小学生から専門家に学習、研究の場を提供 データベース化の蔵書情報はライブラリー、Web サイトで公開</p> <p>1 公開日・公開時間 博物館と同様</p> <p>2 利用方法（料金等） 博物館の入館者の利用は無料。ライブラリーのみ利用は 1 人 100 円。コピーサービス（有料）のほか、レファレンスサービスを実施</p> <p>3 収集・整理 横浜港、港運、海運、船舶、航海等に関する図書、逐次刊行物等を収集（購入 45 冊・寄贈 243 冊・その他 21 冊）・整理して配架 また、図書のデータベース化（約 27,579 冊）を進めるとともに、保守点検を行い、良好な状態を維持</p>
<p>施設外部貸出</p>	<p>1 特別展示室 利用なし</p> <p>2 常設展示室 1 階展示スペース 関東海事広報協会、アートスペース「と」 関内 計 2 件</p>
<p>その他</p>	<p>1 出張講演などの館外活動を実施 2 件 101 人</p> <p>2 川崎市市民ミュージアム資料レスキュー活動への参加 2 回</p> <p>3 活動休止中のボランティアへ博物館の活動を知らせる文書を 6 回送付</p>

【みなとの賑わい創出事業】	
<p>水辺の事業</p> <p>シーカヤック教室 カヌーポロ教室</p>	<p>水辺の事業の柱として、水域及び汽船道側静水域で、シーカヤック教室、カヌーポロ教室を開催。令和2年度の両教室は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月～6月、1月～2月については中止</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 シーカヤック教室の通年開催 20回の開催で延べ115人が参加、利用料金は前年度比約20% 2 カヌーポロ教室の開催 8回の開催で延べ68人が参加
<p>パーク利用事業イベント</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 コーリムジカなどの音楽イベント（貸出）、FMヨコハマ「沖縄チャンプルーカーニバル」（貸出）、ホンダモーターサイクルジャパン「Honda PCX 報道試乗会」（貸出） 2 横浜市のプロモーション事業 積極的な誘致と連携した開催「横浜文化プログラム2020」 音楽&ダンスステージ プリキュアステージ 3 横浜みなとみらい21関係イベント 「汽船道における生物調査（アマモ観察）」 4 「ICCA Asia Pacific Chapter Summit2020」のレセプション会場
<p>ミュージアム・ショップ事業</p>	<p>帆船日本丸、横浜みなと博物館、柳原良平アートミュージアム及び横浜にちなむ商品を販売</p> <p>毎月、お客様ニーズの把握、分析や売上向上を検討するため、職員プロジェクトチームによるショップ検討委員会を開催し、ショップのレイアウトを変更</p>
<p>レストラン・カフェ事業</p>	<p>飲食サービスを提供するため、レストラン・カフェを運営</p> <p>みなとみらい21地区の魅力づくりの一役を担うため、夜の営業や季節に応じたアリーナでのピヤガーデン等の営業（8月末で終了）</p>
【緑地管理・活用及び研修施設事業】	
<p>緑地の維持管理・活用</p>	<p>パーク来場者及び地区来街者向けの景観向上、賑わいの創出</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 緑地 博物館屋上は幼児から高齢の方までが憩える場所として、緑地を管理 2 撮影 利用件数 99 件 利用料収入は前年度比約 130%



<p>グリーンボランティア</p>	<p>近隣地域住民を中心として日本丸メモリアルパークの緑花整備に理解ある協力者 12 名（登録者数）が、年間を通じて緑化のボランティア活動を実施</p> <p>1 活動日（毎月第 1・第 3 土曜日午前中）</p> <p>2 主な活動内容</p> <p>(1) 花壇・プランターの植栽手入れ</p> <p>(2) 横浜みなと博物館屋上芝生の手入れ</p> <p>(3) 博物館ガラス窓「緑のカーテン」づくり</p> <p>3 その他の活動</p> <p>パーク内及び周辺歩道の清掃、さくら通り歩道上「まちかど花壇」緑花維持管理作業</p>  <p>さくら通り歩道清掃</p>
<p>研修施設（訓練センター）の管理運営</p>	<p>1 貸出期間 12月29日～1月3日、1月28日～30日及び休館日を除く全期間 ※設備点検のため部分的に貸出不可日あり</p> <p>2 Webによる予約受付を開始</p> <p>3 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策</p> <p>(1) 会議室毎に1日当たり1回の貸出を実施</p> <p>(2) アルコール消毒等の備品に加え、第3会議室と小会議室にサーキュレーターを配備</p>
<p>【集客増に向けた重点取組】</p>	
<p>マーケットごとの取組</p>	<p>1 法人マーケット（B2B・B2B2C）への取組（通年）</p> <p>(1) 教育旅行マーケットへの取組</p> <p>ア 日本修学旅行協会発行『月刊教育旅行』へ修学旅行誘致のための広告掲載⇒毎月実施</p> <p>イ 観光経済新聞社修学旅行特集への広告掲載⇒支出抑制のため未実施</p> <p>ウ 横浜コンベンションビューローとの各地域・地方都市への連携営業（年2回程度）⇒コロナ禍訪問営業未実施</p> <p>エ 小中学校へのDM実施（4月・9月計約5,200通）⇒支出抑制のため未実施</p> <p>オ 学校利用団体誘致のための新規営業訪問営業⇒コロナ禍訪問営業未実施</p> <p>カ 「キャリア教育プログラム」のブラッシュアップ及び新たな販売促進策の実施（4月～9月）⇒コロナ禍未実施、次年度継続実施項目</p> <p>(2) 企業・団体等法人マーケットへの取組</p> <p>ア JTB団体用企画商品「JTBならではの」への参画継続（通年）⇒実施</p> <p>イ カルチャーツアーへのプログラム・コンテンツ開発</p>

	<p>⇒ (株)朝日カルチャーセンターと企画協議をするも コロナ禍で次年度へ持ち越し。継続実施項目</p> <p>ウ 緑地・パークを利用したイベント誘致・撮影、横浜みなと博物館特別展示室利用拡大のための企画提案ツール作成と新規営業</p> <p>⇒ 撮影についてはWebでの告知展開実施、特別展示室については未実施</p> <p>エ 企業・団体活動プログラム利用導入のプロモーション施策実施と新規営業</p> <p>⇒ コロナ禍未実施</p> <p>オ 利用提携法人団体への取組⇒継続実施 年間販売数 3,679 枚 (対前年 58.5%・△2,611 枚) 期間限定新規 6 団体取扱枚数 40 枚</p> <p>カ 企業・団体等法人のMICE事業への取組</p> <p>⇒ コロナ禍未実施</p> <p>2 個人マーケット (B2C) への取組 (通年)</p> <p>(1) オンライン販売チャンネルへの新規取組</p> <p>⇒ 3社新規取扱開始、取扱実績 793 枚・313 千円</p> <p>(2) リアル販売チャンネルへの取組</p> <p>ア コロナ禍観光需要喚起策 Find Your YOKOHAMA キャンペーン (YCVB 主管) 参画旅行会社へのプラン提案・旅行商品造成への参画・集客実施</p> <p>イ ザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜とのタイアッププログラム造成に向け協議</p> <p>⇒ 次年度実施予定</p> <p>3 外国人マーケット (B2B・B2B2C) への取組</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたマーケットであり、ほぼ全てのプロモーション施策を中止</p> <p>クルーズ船利用客へのプロモーションについて、次年度実施に向け、港湾局と連携して取組を継続</p>
<p>広報・宣伝への取組 (通年)</p>	<p>1 報道機関への取組</p> <p>メディアメイン 28 社へタイムリーにニュースソース配信</p> <p>2 WebサイトとSNSへの取組</p> <p>財団内でのWebサイト主管部署を整理し運用拡大 紙媒体の代わりとして、重点取組事項として運用推進</p> <p>3 ガイドブック・専門誌及び地域誌への取組</p> <p>有料媒体への出稿中止</p> <p>4 旅行会社等への取組</p> <p>JTB、JR東海ツアーズ、ポケットカルチャー社及びJR東日本、京急等鉄道会社への情報発信実施</p> <p>5 海外メディアへの取組</p> <p>コロナ禍未実施</p> <p>6 情報発信ツールへの取組</p> <p>Instagram を新規で公式アカウント開設し、情報発信拡大</p>

【組織運営の質的向上に向けた取組】

各種研修会の実施及び参加実績

主催部分の財：財団、他：市又は団体

月 日	研 修 名	参加者数	主催
4月1日	新採用職員研修	3人	財
7月1日	みなとの博物館ネットワーク・フォーラム総会・企画委員会	2人	他
7月1日	新規規格墜落制止用器具導入に係る講習	1人	他
7月8日 8月4日 8月24日 8月27日 9月8日 9月28日 9月29日	横浜みなと塾	1人	他
7月20日	新規規格墜落制止用器具導入に係る講習	7人	他
8月24日	非常用発電機発停・ビルジポンプ発停・卓上ノコギリ作業・水中ポンプ取扱に係る安全衛生教育	10人	財
8月28日	技術技能講習センターロープ高所作業の安全に係る特別教育	1人	他
9月20日	技術技能講習センター新規規格墜落制止用器具導入に係る講習	1人	他
9月30日 10月1日 10月2日	博物館長研修	1人	他
11月18日 11月20日	港湾局人権啓発研修	1人 1人	他 他
11月26日	全国博物館大会参加	1人	他
12月4日	神奈川県博物館協会防災訓練（情報伝達訓練）参加	1人	他
12月16日 12月17日 12月18日	文化庁ミュージアム・マネジメント研修	1人	他
3月2日	協約マネジメントサイクル研修	2人	他
3月10日 3月11日 3月12日	職員研修（コンプライアンス、個人情報保護、文書・経理事務研修）	44人	財
3月18日	みなとの博物館ネットワーク・フォーラム企画委員会	1人	他

10 指定管理業務の収支状況

令和2年度 収支決算書
令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部			
1 事業活動収入			
① 基本財産運用収入	7,130,000	5,493,774	1,636,226
② 特定資産運用収入	0	2,020,000	△ 2,020,000
③ 利用料金収入	67,025,000	34,222,482	32,802,518
観覧料収入	29,593,000	8,124,282	21,468,718
ミュージアム特別展示室使用料	267,000	0	267,000
研修施設使用料	8,921,000	5,006,160	3,914,840
緑地使用料	5,500,000	10,647,400	△ 5,147,400
海洋教室等収入	12,795,000	1,501,388	11,293,612
タワー管理料収入	9,047,000	8,587,752	459,248
駐車場料収入	902,000	355,500	546,500
④ 受託事業収入	280,594,000	284,363,920	△ 3,769,920
⑤ 自主事業収入	21,118,000	14,843,729	6,274,271
シーカヤック事業収入	2,960,000	879,644	2,080,356
利用料金関連収入	1,980,000	2,499,138	△ 519,138
自販機手数料収入	8,787,000	6,924,166	1,862,834
賃借料等収入	7,391,000	4,540,781	2,850,219
⑥ 記念品販売収入	16,160,000	5,223,898	10,936,102
⑦ 補助金収入	6,700,000	0	6,700,000
⑧ 寄附金収入	5,000,000	1,416,869	3,583,131
⑨ 雑収入	1,691,000	8,906,756	△ 7,215,756
画像使用料等収入	1,691,000	1,955,271	△ 264,271
その他(国等からの支援金)	0	6,951,485	△ 6,951,485
事業活動収入計	405,418,000	356,491,428	48,926,572
2 事業活動支出			
① 施設運営事業費支出	381,454,000	293,304,960	88,149,040
(1) 帆船日本丸事業費支出	176,033,000	136,100,234	39,932,766
ア 保存事業費	101,754,000	90,458,376	11,295,624
イ 公開事業費	61,079,000	40,251,919	20,827,081
ウ 青少年練成事業費	13,200,000	5,389,939	7,810,061
(2) 横浜みなと博物館事業費支出	152,457,000	111,795,262	40,661,738
(3) 緑地事業費支出	52,964,000	45,409,464	7,554,536
② 指定管理者管理費支出	52,639,000	55,148,884	△ 2,509,884
③ 自主事業費支出	5,477,000	5,958,554	△ 481,554
(1) シーカヤック事業費支出	2,061,000	170,147	1,890,853
(2) 自主事業管理費支出	3,416,000	5,788,407	△ 2,372,407
④ 売店事業費支出	16,009,000	8,429,227	7,579,773
事業活動支出計	455,579,000	362,841,625	92,737,375
事業活動収支差額	△ 50,161,000	△ 6,350,197	△ 43,810,803

II 投資活動収支の部			
1 投資活動収入			
① 基本財産取崩収入	0	0	0
② 特定資産取崩収入	5,314,000	5,314,000	0
(1) 退職給付引当資産取崩収入	0	0	0
(2) 特別修繕引当資産取崩収入	5,314,000	5,314,000	0
投資活動収入計	5,314,000	5,314,000	0
2 投資活動支出			
① 基本財産取崩支出	0	0	0
② 特定資産取得支出	0	6,492,500	△ 6,492,500
(1) 特別修繕引当資産取得支出	0	5,000,000	△ 5,000,000
(2) 退職給付引当資産取得支出	0	1,492,500	△ 1,492,500
③ 固定資産取得支出	0	24,501,312	△ 24,501,312
(1) 公共施設負担金取得支出	0	24,501,312	△ 24,501,312
投資活動支出計	0	30,993,812	△ 30,993,812
投資活動収支差額	5,314,000	△ 25,679,812	30,993,812

III 財務活動収支の部			
1 財務活動収入			
① 横浜市による運営支援(休館期間等)	0	9,573,226	△ 9,573,226
② 横浜市による運営支援(利用再開後の期間等)	0	23,078,550	△ 23,078,550
財務活動収入計	0	32,651,776	△ 32,651,776
2 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	32,651,776	△ 32,651,776

指定管理業務 収入合計	410,732,000	394,457,204	16,274,796
指定管理業務 支出合計	455,579,000	393,835,437	61,743,563
当期収支差額	△ 44,847,000	621,767	△ 45,468,767